

森のおくりもの6月



オオルリ (ヒタキ科)



この時期、森を歩いていると、ときおり「オオルリ」に出会うことがあり、その鮮やかな羽根の色に思わずはっとすることがあります。先日、樹上で2羽の鳥がじゃれあって(?)いたので、カメラを向けてみると、オスとメスのオオルリでした。オオルリはその体の色の鮮やかさから、青色が美しい鳥「瑠璃三鳥」に加えて、さえずりが美しい「日本三鳴鳥」という二つの称号を与えられた果報者です。

オスの鮮やかな姿に比べると、メスはなんとも目立たない姿をしています。これは、メスは巢内で子を温めることが多い等、地味な姿の方が生き残るのに都合がよいからとも言われています。※すべての鳥がそうではありません。

美声でもなく、地味な服装を好み、出来るだけ目立たずに生きていきたいと考えている私からすれば、オスのオオルリは羨望の対象です。

【写真・文 近藤晋也】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『尺蠖の屈めるは伸びんがため (しゃっかくのかがめるはのびんがため)』

芽吹き頃の森は“山笑う”の言葉通り、やわらかい緑色のパッチワークのようでしたが、今は濃い緑一色で眩しい新緑の風景です。あちらこちらで穴が開いたり丸まったりしている葉っぱなど、いろいろな虫の仕業やイモ虫などをよく見かけます。

ユーモラスな動きをすることでお馴染みのしゃくとりむしがいました。長さを測ることを昔は“尺を取る”といいましたが、シャクガの仲間の幼虫は、移動の仕方がまるで長さを測っているように見えることから“尺取り虫”と呼ばれます。

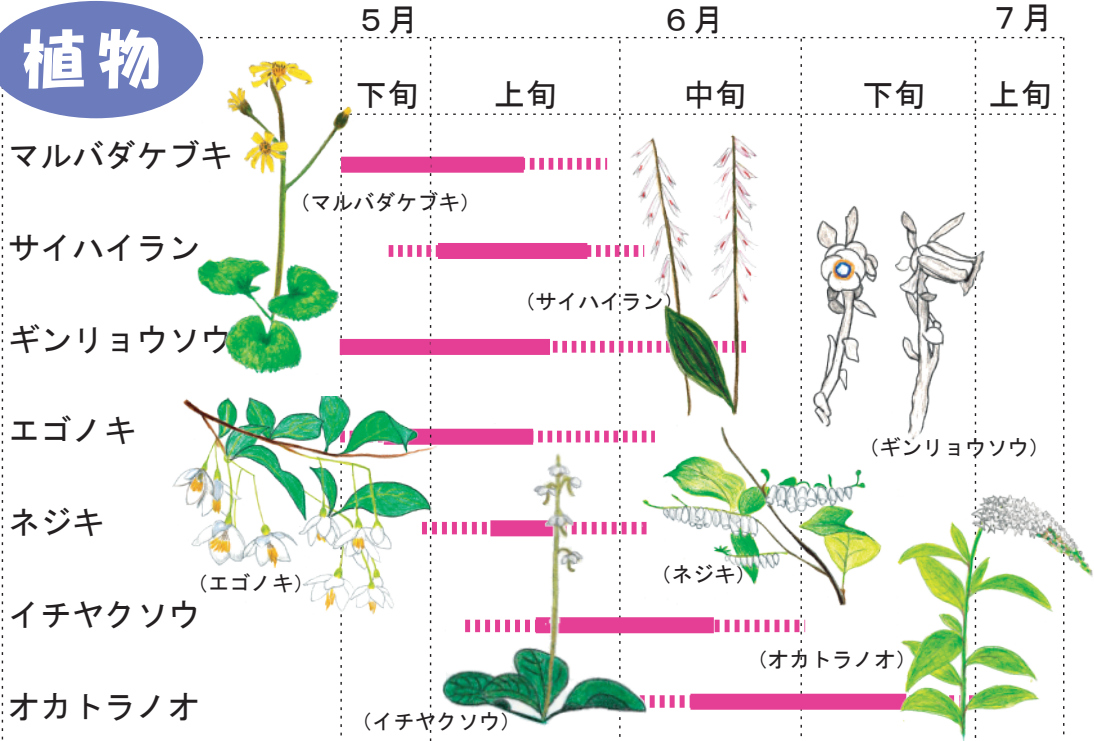
そんな尺取り虫の習性から例えた『尺蠖の屈めるは伸びんがため』という言葉があります。尺蠖とは尺取り虫の別名で、「尺取り虫が体を縮めるのは、体を伸ばすときにより長く伸びて前進するためであることから、一時的に不遇もあるが将来の成功のために耐え忍ぶこと」という意味です。昔の人は自然をよく見ていて、虫の動きから人生の教訓などを導き、その観察力と発想力がすごいと感心します。

人生は様々なことが起こると実感しますが、困難や不本意な状況に置かれたとしても、成長や飛躍をするための出来事と考え、何とかなるさと楽観的になることが大切だと教えてくれていると感じます。【レンジャー：新田隆一】



6月の生物ごよみ

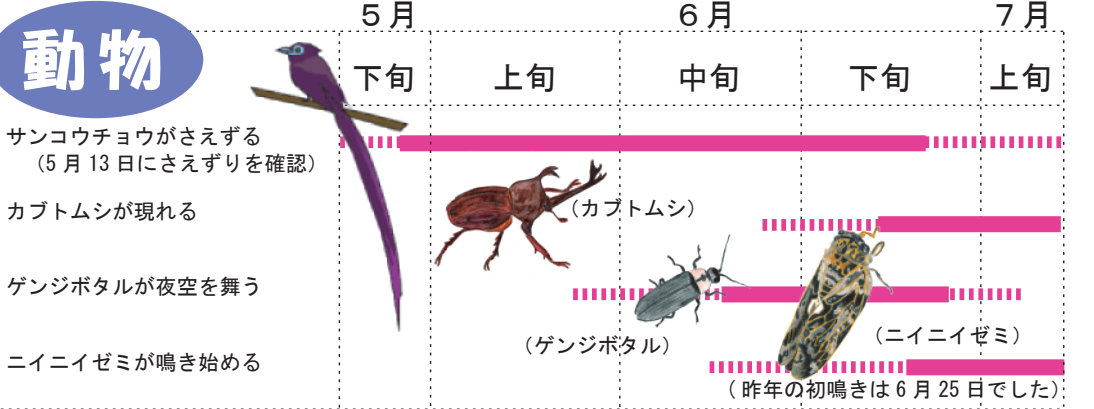
植物



5月20日、ヨシの湿地で10個ほどのシュレーゲルアオガエルの卵塊を見つけました。今年はひとつの卵塊をセンターまで持ち帰り、飼育観察をすることにしました。26日には10mm弱のおたまじゃくしが6匹ほど生まれ、29日までに287匹が孵化しました。(その後の孵化は確認されていない。)

カエルになるまでは一ヶ月半ほどかかると言われていますが今後どのようになるかさらに観察を続けたいと思います。

動物



【レンジャー：齋 正宏】

※さえずり 繁殖期や縄張り宣言の時に出す鳥の美しい鳴き声。ただしさえずりと地鳴きの明確な区別はなく、一般的に複雑で長い鳴き声を「さえずり」と呼んでいる。

森の「おとしもの」



その22 「クラゲ？グミ？」



雨上がりの森に枯枝についた不思議なおとしものがあちこちに落ちています。陽に透かすとステンドグラスみたいに輝いてきれい。そして何とんでもこの手触りが“やわやわ”“ぷにょぷにょ”のクラゲというか（いやクラゲってほとんど触った事ないな）まるでお菓子のグミです。でもそのまま口にいけないで！私の調べた図鑑に「食毒不明」とありました。

というわけで、正体は「タマキクラゲ」というキノコの仲間です。丸い“タマ”のみたいな“キクラゲ”ってことでしょうか。カサもヒダもなくよく見かけるキノコとイメージは違いますが、タマキクラゲも枯れ枝を分解して土に返しているのでしょうか。山が枯木や落葉で埋もれず命が循環していくのはキノコのおかげなんですね。

「梅雨は嫌」という方多いと思いますが、いろいろなキノコと出会えるチャンスでもあります。



持ち帰って乾燥させたら縮んで地衣類みたいな跡だけになってしまいました。スーパーで売っている乾燥キクラゲを想像してたのに…

【レンジャー：木田秀幸】

森は糸 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって森として生きているんですね (*_*)

観察の森には様々なランが自生しています。例えば、4月半ばころからユウシュンラン、5月になるとササバギンラン、ギンランの白い花が見られ、黄色のキンランの花も見られました。ランは自然環境と特に密接な関係にあり、それ故に人工で飼育するのは非常に難しい植物です。ランが自生するこの森の環境がなければ生息できない植物なのです。この森は宝の森ですね。(^^)

植物と菌根菌のつながり・・・共生か依存か

多くの植物は地面の中で根の周りや根の中にある菌（菌根菌）を通して栄養素のやり取りを行っています。菌が付いた根を菌根といいます。



葉緑体を持たないランの**ツチアケビ**は、**光合成をせず**菌根菌から全て栄養分をもらいます。

図の樹木のように持ちつ持たれつの共生関係にある植物は多いのですが、ササバギンランやキンランは菌根菌に何かを供給することはありません。また、ツチアケビに至っては菌根菌から成長に必要な全ての栄養分を得ています。菌根菌の器の大きさが光りますが、あれっ、でもよく考えてみると、やがて朽ちた植物の体は、・・・菌根菌のお世話になりますね。(^^)【レンジャー：菅原幸彦】

6月のイベント&お知らせ

◆おはよう野鳥かんさつ

初夏の森を歩きながら、講師とともに野鳥の声と姿を探します。

【日 時】6月13日(土) 6:30～8:00

【持ち物】歩きやすい服装と靴、雨具、帽子、持っていれば双眼鏡

※新型コロナウイルス感染防止のため観察道具の貸出しを現在停止しています。

※※申込み不要です。開始時刻までに観察センター前までお集まりください。



◆夜の森のかんさつ会

いつもは体験できない夕暮れからの夜の森の観察会を行います。

【日 時】6月27日(土) 19:00～20:30

【持ち物】雨具、歩きやすい服装と靴、帽子、懐中電灯

【定 員】20名

【申込み】6月6日(土) 9時より電話受付にて先着順



◆ガイドウォークは午前と午後の2回です。

午前 10:00～11:30 と午後 1:30～3:00 の開催

◆新型コロナウイルスの感染拡大や天候の急変等でイベント中止・短縮場合があります。

毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

開催予定: 7日, 14日, 21日, 28日

開催時間: 10:00～11:30, 13:30～15:00

今月のテーマは「初夏の森の楽しみ」

6月の休館日

1日(月)、8日(月)、
15日(月)、
22日(月)、
29日(月)



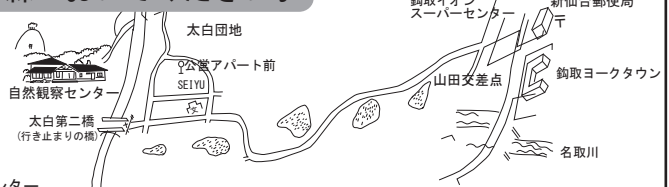
宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ、
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで!

2020年6月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>